

令和3年度 第3回 学校運営協議会 記録

○日時 令和4年3月上旬 書面にて開催

○参加者 学校運営協議会委員 桃山学院教育大学 教授 長谷川 陽一 様
守口市教育センター センター長 佐々木 幸子 様
錦地域コミュニティ協議会 会長 渡辺 人司 様
守口支援学校 学校医 森口 久子 様
門真公共職業安定所 統括職業指導官 須藤 佳子 様
本校PTA会長 宮田 亜希子 様

○内容

1 令和3年度学校教育自己診断集計結果報告

別紙資料をもとに、今年度学校教育自己診断の結果・分析について書面にて報告。

[委員からのご意見]

- ・保護者からの回収率を上げることが課題。
- ・教職員の回収率100%は児童生徒・保護者への真摯な姿勢の表れと感じている。
- ・保護者、教員ともに設備施設が適切に整備されていないと感じている。順次要望を出していると思うが、PTAとも連携をとり、対府要望にも力を入れた方が良いかもしれない。
- ・コロナ禍のため行事が少なくなり、学校からの連絡も混乱しがちである事に、辛口の評価が多くなっている。しかしその中でも個別の支援や、障がいについての理解が深まったと感じて頂けているのは先生方の努力である。
- ・個に合わせた指導や、安全で安心できる教育環境など、児童生徒に直接関わる項目について教員も達成感を持っており、学校としての姿勢が素晴らしいと思う。一方、校務の分担や分掌の機能、情報共有については課題だと認識されているようなので校務を円滑に行うための工夫や取り組みを聞かせてほしい。

2 令和3年度学校経営計画の総括と今後の課題について

別紙計画をもとに、今年度学校経営計画における重点目標に対する自己評価について書面にて報告。

[委員からのご意見]

- ・コロナの影響で業務が増えるなか、ICT・研究授業等教職員の方々が日々研鑽されている事を高く評価する。
- ・アクシデント、ヒアリハット等の取り組みは継続して進めていただきたい。
- ・大規模災害や医療ケアの推進など、安心安全に向けて普段から訓練に多く取り組み、緊急事態に備えていることは高く評価する。
- ・多忙のなか時間外業務を減らすことが出来たのは大変素晴らしい。
- ・コロナ禍でのセンター的機能の発揮は指標には届かないまでも高く評価できていると感じている。
- ・コロナパンデミックも大きな災害であり、異なる形の防災であったと思う。マニュアルや指針の重要性が認識できたが、課題に応じて柔軟な対応力も発揮できたと感じる。
- ・卒業生による進路報告会は、生徒のみならず保護者にとっても非常に参考になるので今後も継続されることを望む。
- ・学部を越えてキャリア教育の視点を持ち指導していることが、進路の実績につながっているのではないと思う。今後も、生徒や保護者が進路選択の展望を持つことができるような学習をすすめてほしい。

3 令和4年度学校経営計画について

別紙計画をもとに、「めざす学校像」と「中期的目標」について書面にて提案。提案について全委員より承認された。

[委員からのご意見]

- ・Zoom ミーティングや合同会議、書面決裁が増えた。これはコロナ後も活用できるので、業務のスリム化を図ってほしい。
- ・昨年の「めざす学校像」と比較して、社会の中で地域の人々とともに生きていくことを重視している内容となっているのはよい。
- ・ICT の利用は課題である。教材の基礎はできるだけ既存の物を使用し、教員の負担を減らすべきである。映像に興味を持つことと理解の定着は別物である
- ・授業力向上の取り組み、全教職員による積極的な学校経営参画には力を入れていただきたい。
- ・小学部からのキャリア教育により、早い段階で将来の進路や社会参加について意識を持たせることは良いと思う。また、保護者は、子どもの将来について不安が大きく、早い段階から進路説明会を行うことで、少しでも安心できるのではないか。
- ・施設・設備の老朽化対策について、必要であれば大規模修理を含め、窓口機関に対して具体的に訴え続けることが必要と考える。
- ・この2年間十分にできなかった防災訓練について、考えていただきたい。
- ・コロナ禍の中で難しい状況とは思いますが、引き続き、居住地校交流等の充実をお願いしたい。
- ・北河内の支援学校の中核としてセンター的機能を発揮するとともに、錦地域の小中学校との交流も深められることを期待する。